

プラスの お知らせ

床ずれ予防 正しいか確認 できます!

どうして体圧測定が必要?

床ずれリスクを軽減させるために、クッションを入れたりマットレスを変えたり、体位交換したりと色々対策がありますね! その対策の前後の体圧を数値化することでより適した方法か確認することができます。

ベット臥位、車いす座位ともに、ポジショニングするが床ずれリスクは変わっていないよということがないように体圧測定には重要な役割があります。



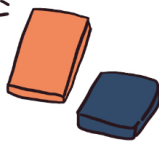
活用例

マットレス・クッション変更時



マットレス変更前後で体圧を測定して比較しています。40 mmHg以下が床ずれリスクが低い目安になります。

適切な選定につながります♡



← Palm Q 詳しいはこちら!

体圧測定 臨床シート

氏名 様

仰臥位 側臥位 座位

株式会社プラスエス QCC大阪

測定日	部位	体圧値 (mmHg)	体圧分散係数の種類・設定	体圧値 (mmHg)	体圧分散係数の種類・設定
2024年 1月24日	1 後頭部	59.0	100% フォットCB		
	2 肩	22.8 / 22.5	通気ゲージ		
	3 背中	17.9	マットレス面		
	4 仙骨部	93.8		73.2	足かけ 12°
	5 ほか	66.7 / 69.5		43.5 / 38.9	
所見	上背はマットレスの接触面積が大きく、適切に体圧分散が図られており、下肢は圧痛を強く、その重さで膝部にかかるの計で測定しています。褥瘡発生のリスクを利用し、大腿骨の圧を分散させるための接触面積を増やし、分散を図りました。				
2024年 1月25日	1 後頭部	55.7	30%		
	2 肩	39.4 / 30.5	20% 60kg		
	3 背中	21.1	圧調整 + 足かけ		
	4 仙骨部	56.5		66.4 / 68.1	(7.2°利用)
	5 ほか	59.1		25.2 / 23.0	
所見	マットレス導入に思い届かず、仙骨部の圧が下がって、足の圧も下がりましたが、圧調整により圧が軽減しないことで床ずれのリスクを維持します。足の圧調整と圧調整の両方を利用し、7.2°で測定しています。				

10-Qと併用したい方など
勉強会に使用したい方など
お声掛け下さい!